

学校だより  
第44号

# 報徳

R 3. 7. 16  
校長 松下 公博

## 心の中で抱きしめる

### 子どもへの伝え方

梅雨前線も北上し、熊本も梅雨明けしました。今年も各地で水による災害が発生しました。被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。1学期もやがて終わります。子ども達も楽しい夏休みを心待ちにしているようです。ところで、私の週末の楽しみの一つは、撮りだめしておいたドラマを見ることです。先日、テレビドラマ

「ドラゴン桜」が最終回でした。生徒たち一人としての在り方を語る桜木弁護士のリフには胸のすく思いがします。しかし、実は私学園ドラマが苦手です。なぜなら、意地悪な教師先生や、激しい口調で学校に詰め寄る保護者などが出てきて残念な気持ちになるからです。本当の学校はそんなことはありません。先生たちはみんな子ども

ものために一生懸命だし、保護者の皆さんは学校のことを理解され子どものために一緒に考えてくださいます。エンターテイメントとして楽しめるように作ってあるわけですから、このようなことを言うのも野暮ですね。なんとなく見ているテレビの中で、いつまでも記憶に残る言葉に出会うこともあります。だいぶ前になります

「ビリギャル」という映画がヒットしました。学業に背を向けていた高校生を塾の講師が有名大学に合格させるという実話に基づいたストーリーです。その講師がドキュメンタリー番組に出ていました。やる気が起こらず、成績が伸び悩んでいる高校生に對して、母親に関わりを指南しながら、やる気を引き出していくという内容でした。母親は、これまでやる気を出させようと、叱咤激励を繰り返してきましたが、子どもは、素直に聞き入れることができません。講師は、母親に「娘さんの良いところを20個書き出して、それを暗記してください」と言います。母親は10個くらい書いたところで頭を抱え

てしましますが、なんとか書いて、覚える頃には娘への声掛けが、思いやりをもった言葉へと変化していきます。それに伴って、子どもの反応も素直なものへと変わっていきます。講師は、子どもに指導するうえで最も大切なことは、  
**『心の中で抱きしめながら会話をすること』**と言います。「この子は素晴らしい」と感じることが大切だということです。「何て言えばいいんだろう」「あんな言い方しなければよかったかな」と子どものしかり方や褒め方で悩むときは、まず子どもをギュッと抱きしめている自分の姿を想像されてみてはいかがでしょう。

## アプローチ完成

報徳園と報徳の碑は池田小学校のシンボルです。「自分のためだけでなく、他に感謝し、その恩に報いる行動を大切にす」という報徳の教えは、池田小でこれまで長く子ども達に受け継がれてきました。この度、6年生が入口から報徳の碑までのアプローチを作りました。みんなで力を合わせて、穴を掘り、一つ一つレンガを敷き詰めていきました。レンガの側面には自分の名前と一言が書いてあります。プロでいらつしやる保護者の吉田さんにもお手伝いをしていただきました。池田小の子ども達、地域の方々いつまでも親しまれる場所になるでしょう。